

コペルニク主催

See-D Contest 第1部 See-D Innovation Workshop

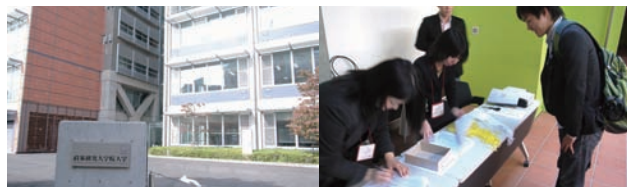
成果発表会 2010.10.23.Sat.

@政策研究大学院大学1階 想海樓ホール・会議室

本年春からスタートした see-D コンテストも、7月のシンポジウムでは 90 名近い応募者に恵まれ、そのうち 50 名近い方を選抜して、計 5 回のワークショップを進めてきました。今回の「成果発表会」は、これまでのワークショップの成果を、展示会と発表会という形式で一般の方に説明する機会となりました。



13:00- 開場 – ようこそ成果発表会へ –



受付を済ませ、多くの一般参加者の方が展示会場へ。



展示会場の入り口付近には、このワークショップの目的や思いが明示されると同時に、これまでのワークショップのプロセスをリアルタイムペーパーとリアルタイムビデオを使って紹介しています。来場者がこの場を楽しむための工夫がされています。



展示会場では WS 参加者が自分たちの成果を一般参加者の方に説明しています。

13:30- 成果発表会



本日の司会は岩田さんです。

まずは、政策研究大学院大学の黒川先生のご挨拶がありました。「現地に行って、その暮らしを感じる事が重要です。」

次に、See-D コンテスト実行委員長の陸さんからのメッセージが投影されました。「適正技術は、イノベティブでワクワクするもの」「失敗失敗に寛容であってほしい」

Rain Jar

by ティモレインジャー



突如ムービーが放映された後、現地の水に関する問題を寸劇で表現し、会場の笑いを誘いました。

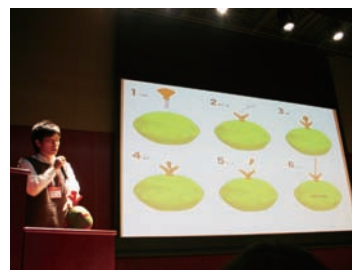
水を得るために、離れた水汲み場までいく苦勞をなくしてあげたい。そのために、

雨期に水を溜めて、乾期に利用するプロダクトを提案しました。これにより、現地の人が水汲みに割っていた時間を有効に使えるようになるでしょう。普及方法も考えられていました。講評者からは、「アイデアはいいがパッケージ化、制度化が課題」との声が聞かれました。

wanic kit

by wanic inc.

現地で多く採れるヤシの実からお酒をつくるプロダクトを考えました。USTREAM で、外国から中継で実際にお酒をつくる過程を上映。wanic kit でヤシの実に酵母と砂糖をいれて 5 日間寝かせれば完成です。そのお味は…、う



まい! 2 次利用として、たわしや医薬品をつくるというアイデアも考えていました。しかし、講評者からは、「現地にはプラスチック成形の技術がないので、つけれないのではないか?」などの指摘がありました。一方、「こういう場を活かしたおもしろい提案だった」という意見も。

1. Link Watt

2. Link Watt × Kickboard

by The 男塾



現地には電気がなかったが、携帯電話やテレビはある。電気への憧れみたいなものがあるので、そのニーズに応える、単三電池を充電できるキックボードを提案しました。水汲みの際にこれを使えば子供の水汲みは楽しく、ラクにもなります。しかし、ここまでは長い前置き。本当の提案は「本当の幸せて、現地の人が考え、創り出すもの!」「だから、創意工夫の余地があるものを」という思いを形にする仕組み作りです。講評者からは、「はじめは携帯電話の充電で満足するだろうけど、そのうちもっと多くの電気を必要とするようになるのでは。」

Pumpy Ice

by 東景

自分たちで生み出すという体験を現地の子供にさせてあげたいという思いから、電気がなくてもアイスを作れる機械を提案しました。寸劇では、8人の男が一齐にポンプを押すという迫力のシーンが! 講評者からは、「科学を身体を使って理解できそう」「この機構は自由度が高い」「現地でワクチンを郵送するときに使えそう」



Sunny Side Go

by Sunny Side Garage



現地の輸送を効率化し、現地を元気になりたいという思いから、子供でも簡単にワクワクしながら荷物を運べるプロダクトを提案しました。回転成形という手法を用いることで安く作れます。最終的には現地で輸送企業をつくりたいと思っています。講評者からは「回転成形は現地で簡単にできる技術なのか」「本当に運びやすいか」

Lorosae creative firm

by 簡単揚水ポンプキット

子供たちが貴重な時間を水汲みに費やされている現状に対して、水を低地から汲み上げる技術を提案しました。燃料を使わないものにした! またキット化することで壊れた部品だけを交換できるようになります。1日で28人分の水を汲み上げられるようになります。講評者からは「東ティモールは水害があって高台に家があるので、こういう技術は役に立つと思う」「水が必要以上に使われて、これまでの生活を壊してしまうのでは」



KARI・KARI

by team テクノプロ

教科書がハンドメイドである東ティモールに対して、電力を使わない印刷機を提案しました。日本の「ガリ版印刷」を応用しています。現地で本体、インク、紙を生産することができます。印刷ができることで、広告などの新たな文化が生まれるかもしれません。講評者からは「他のチームが水の問題に着目する中、学習に着目したのはおもしろかった」



16:30- じっくりと成果を見てください!



発表会終了後、展示会場へと移動し、展示されたWSの成果をWS参加者から説明を受けながら鑑賞しました。一般参加者は葉っぱの形をした付箋にフィードバックを書き、チーム毎に置かれた木に貼っていきました。See-Dの名のようにタネを咲かせましょう!

17:00- 本日の振り返り



最後は、米倉先生から「私の膝を震えさせるようなものまでいってほしい!」というご挨拶と、RTVの上映で締めくくられました。See-D コンテストはここで終わりではありません!

- 日時: 2010年10月23日13時~17時
- 会場: 政策研究大学院大学1階 想海樓ホール・会議室
- 参加者定員: WS参加者約45名、一般参加者200名
- 問い合わせ: <http://see-d.jp/>
- 主催団体: NPO法人コペルニク